

令和3年度西部支部総会 支部長就任挨拶

橋本 州史

このたび、西部支部長（本部副会長）に再任されました長崎大学大学院の橋本州史です。三菱重工造船部門に41年間在籍しましたが、この間は日本造船界がオイルショックから立ち上がって建造船種を増やし、技術的にも企業経営的にも大きな変動を経験した期間でした。2年前に長崎大学に新講座を開設すると同時に西部支部長を拝命し、副支部長の安東先生及び運営委員の皆様から有益なご提案とご支援をいただいて参りました。厚く御礼申し上げます。現在、産業界も大学も今後の方向性を模索する試練の中にあり、この状況下で学術を技術に具現化する工学系学会の重要性を再認識しております。



新型コロナウイルス感染は収束の兆しがなかなか見えず、学会活動にも様々な制約が出ていますが、会員各位が様々な工夫をして西部支部の運営や活性化を推進いただいていることに感謝申し上げます。一年以上続く新型コロナ禍でWeb会議が日常的になったように、各種の情報はサイバー空間で容易に運べるようになり、人流も減らすことができますが、原材料・食料・エネルギー資源・製品類等の大規模物流は、フィジカル空間で船舶等の移動体での輸送が必須の手段です。特に、四面を海に囲まれ、輸出入のほぼ全量（約99.6%）を海上輸送に依存している日本における海運・造船の役割と責任の大きさを改めて痛感いたします。

西部支部の特徴は、船舶建造の実業に従事される会員を多く抱えて船舶海洋産業の最前線に立っていることです。船舶海洋産業は厳しい国際競争の下にあるだけではなく、メガトレンドに敏感に反応する産業領域でもあります。船舶は有史以来の長い歴史を持っていますが、推進システムを例として見ると、GHG削減は必須の課題となり、人力⇒風力⇒化石燃料（石炭）⇒化石燃料（石油）と変遷した後、ポスト化石燃料の時代を迎えつつあります。さらに、電源構成の見直しに対する貢献（浮体式洋上風力発電による海洋再生可能エネルギー等）も期待されてきています。

日本の近代造船業は、特に第二次世界大戦後の「石油の時代」を捉えて、大型タンカーを全世界に供給して造船大国となり、同時に船舶工学各領域の研究でも世界をリードし、現在の船舶海洋工学の理論体系や各種手法を開発し製品に実装化した実績を持っています。今後、確実に押し寄せる新エネルギー対応および海上物流の変革に関する大波の中で、「日本造船界が提供する新しい価値」に業界と学会の今後がかかっていると思います。

研究活動の切り口では、大学を中心とした各研究分野と社会的課題領域を繋ぐのが工学系の学会、特に西部支部のような「実業分野の代表が運営委員として多数参画されている団体」の重要な役割と考えています。工学系の研究は、最終的に実業界で実装化されて大きな成果となります。西部支部は、このような視点に立って、歴史的にも産業界の実務に貢献する研究開発活動を積極的に推進し、会員への啓発活動を含め様々な活動を推進してきました。これらの地道な活動は、新型コロナ感染防止の中でも停滞させることなく進めてゆきたいと思えます。

船舶海洋工学の研究分野への期待は大きく広がってきており、物理現象、生産活動、社会経済動勢等の真摯な探求に基礎をおいて活発な研究活動が進められている基盤技術領域（流体、構造、材料、艀装、工作、情報システム、海洋環境等のコア領域）は、新技術・新手法も含めてバージョンアップしてしっかりと保持すると同時に、新しいニーズに対しては他分野の知見も織り込んで、あるいは連携して伸ばしてゆく必要があります。

船舶海洋工学は、各時代の最新技術を組み入れながら、システムとして纏め上げる優れた工学分野ですが、足許では日本国内における研究開発力や実装化のための技術力が産学ともに分散化しており、船舶海洋に関連する学術も産業も国際マーケットで動くことを考えれば、「日本としての実力を十分に発揮する体制」を再整備することが喫緊の課題です。日本船舶海洋工学会の三学会統合の真価も問われる局面であり、さらに時代の要請に応じてウイングを拡げるためには、日本マリンエンジニアリング学会・日本航海学会の海事三学会に加えて他学会とも柔軟な連携がこれまで以上に重要になったと考えます。

海洋国家日本としての技術と事業を発展させ、成果を蓄積するのは最終的には人の力（質と量）であり、特に有能な若いメンバーを獲得してゆくには、海事関連諸団体（業界、学会、官界、大学等）が具体的な将来展望を発信し、学術および産業の明確な方向付けを示すことが不可欠です。日本造船工業会との情報交換も本格的に進めて、学会としても人材の確保と育成を最重要課題として引き続き重点的に取り組んでゆきたいと思えます。

微力ながら、第2期目の支部長を拝命しましたので、支部活動がボランティアとして取り組まれていることを常に念頭に置き、会員全員がメリットを享受でき、かつ自信を持って学会活動に参加いただける西部支部を目指したいと存じます。船舶や海洋（海上輸送や海洋資源開発を含む海洋利用）に関心を持つ沢山の技術者・研究者が意欲を持って参画できる日本船舶海洋工学会を作るべく、西部支部会員の皆様のご支援をいただきながら尽力する所存ですので、引き続き積極的なご提言・ご協力をよろしくお願い申し上げます。